



さざんか

かとう学園 宗像市立河東中学校
学校通信第8号(R5. 5. 24)

第38回体育祭、4年ぶりに終日開催しました！



5月20日(土)、曇り空のもと心地よい涼風が吹く中で、第38回体育祭を開催しました。4年ぶりに全学年の保護者のみなさんと来賓の方に来校していただき、盛大に行うことができました。

今年の体育祭のテーマは「力戦奮闘～河東中生の笑顔をそえて～」でしたが、そのテーマそのものの体育祭でした。全校生徒が皆全力を出し切り、かつてないほどの大声をあげて競技し仲間を応援する光景が戻ってきました。

今回の体育祭の目的の一つに「クラスや学年の団結、縦割りのブロックでの団結による集団づくり」を掲げていましたが、体育祭当日はもちろん、体育祭の取組の3週間で十分に達成できたと思います。今回の集団づくりが、学業や部活動等でその効果が発揮されていくことでしょう。今回の体育祭で培われた、人と力を合わせる喜びや人と協力する楽しさは、大人になって就職してからもきっと役立つことでしょう。

体育祭は、個々の競技や全体の“結果”は大切ですが、体育祭を通して個人的にも集団としても“成長”することがもっと大切です。体育祭期間中に成長したことが、これからの学校生活や将来にわたって様々な面で良い影響や成果が出てくることに間違いありません。自分なりにどの部分が成長したのかを自覚して今後に役立ててください。

これからの河東中は、体育祭の成果を活かしながら、日々の授業をはじめ定期考査や部活動・クラブチームの活動に気持ちを切り替えて頑張っていきます。

河東中卒業生が教育実習に来ました(5月23日～6月12日)



【 養護教諭 伊藤 瑠美 先生 】

九州女子短期大学から教育実習できました伊藤瑠美です。養護教諭を目指しています。保健室での対応や怪我の処置などを実際に体験し、大学で学べないようなことを身に付けたいです。保健室にいることが多いと思いますが、学校で会った時はたくさん声を掛けてくれると嬉しいです。実習初日から、廊下でたくさんの大きな挨拶が聞けて、とても元気だなと感じました。私も河東中学校の先輩として生徒に負けないくらい明るく元気よく実習に取り組みます。3週間よろしくお願いします。

【 国語科 森本 真由 先生 】

23日から3週間教育実習生として皆さんと過ごさせていただきます。福岡女子短期大学から来ました森本真由です。7年生の国語の授業を中心に実習していきます。この実習を通して、先生方や生徒の皆さんから学びに対する姿勢や取組など、多くのことを学びたいです。また、今の河東中の生徒がどのようなことに頑張っているのか、どんな学校生活を送っているのかについても知りたいと思っています。3週間という短い期間ですが、一生懸命頑張りますので、よろしくお願いします。



体育祭で全力を出し切った全校生徒のみなさん、次なる目標はなんですか？

部活動・クラブチームなど各自で様々な次の目標を立てていると思います。忘れてならないのが、3週間後に行われる本年度最初の定期考査です。テスト勉強も目標を持って頑張ってください。そこで、下のようなコラムを書いてみたので読んでみてください。

「考え抜く」ことのススメ

～ “よく考える・深く考える” とはということだろうか？～

どうやったら成績が上がるのだろうか？ どうしたら頭が良くなるのだろうか？ — 子どもがよくする質問です。

今の学校教育に求められている大きなテーマの一つが「思考力」の育成にあります。

では、考える力をつけ、頭を良くし、成績を上げるためにはいったいどうしたらいいのでしょうか。

そこで今回、河東中のみなさんにおすすめするのが「考え抜く」ことです。授業や家庭で勉強する内容や様々な問題をとことん「考え抜く」習慣をつけることをおすすめします。

考え抜くとは、文字通りちょっと考えて終わるのではなく、時間をかけてひたすら考える、答えがなかなか出なくてもあきらめずに考え続けることです。けっこう難しいことです。なぜならば、今は「答え」が氾濫しているからです。答えはネットで調べればすぐ見つかります。もうすぐチャット GTP も普及しそうです。しかし、あえて答えを探してあれこれさまようことをススメているのです。その方が思考力という人間本来の能力が上がるからです。

人間の体の機能のうち、使えば使うほど消耗してしまうものと、使えば使うほど能力が高まるものと2種類があります。目や歯などは使いすぎると機能が衰えてしまうので前者です。しかし、脳や筋肉は使えば使うほど能力が向上する後者です。つまり、頭は使えば使うほど機能は向上していくのです。

ただ、そう簡単にはいきません。実は本来、人間は頭を使いたがらない生き物、自然状態では考えることを避けようとする生物だからです。少し科学的な話をしましょう。人間の脳は約1000億個の細胞があります。重さにして体重の2%。体重が50kgの人は脳は1kgです。ところが、脳が使うエネルギーは、食べた物の4分の1で、25%も脳だけが使います。体のたった2%の臓器が25%も使うからたまったもんじゃありません。そこで自然状態では、本能的にと言ったほうがよいかもかもしれませんが、節約してムダに使わないようにしようという作用が働きます。だから、脳を使わないよう、勉強したくない、考えたくないと思うのは自然なことで、脳のクセと言ってもいいことなんです。ライオンやトラを想像するとよくわかると思います。ライオンやトラは日常寝てばかりです。人間も脳だけはそうしようとするんです。できるだけサボろうとします。そこで、これを知ったうえで、人間のすごいところは、これを克服する知恵があるということです。ここが、他の動物と人間との違いです。つまり、人間には、一方で意志の力があって、自分をコントロールするすべを身に付けることができるということです。自分の意志で積極的に脳を使うことです。

よく考える、と言いますが人はけっこう少し考えてうまくいかないとすぐあきらめてしまいます。これでは本当にいいアイデアは浮かんできません。もうダメだ、と半ばあきらめたところでなお、投げないで考え続けていると、素晴らしい考えが得られます。これが考え抜くということです。

考え抜くために最も重要なことは何でしょうか。それは、結論が出ない苦しみに辛抱強く耐える能力です。考え抜くことは、想像以上に苦しいことです。多くの人は、早く結論を出したいあまりに「結論に近いもの」や「結論っぽいもの」にすぐに飛びついてしまいます。しかし、安易に結論に飛びつかない姿勢こそ、「考え抜く」ために最も大切な態度です。

現代社会は、確かに素早く正確に答えが求められる時代です。しかし、思考力をつけるためには、時には一時間かけて、いや一日かけて一つの問題をとことん考え抜くことが必要です。一晩かけて解けなかった数学の問題が、朝起きると解法がひらめいたというような経験をしてほしいと思います。河東中生には、ぜひ考え抜く力を中学生の時に養ってほしいと願っています。

『学問に王道なし』と言われる。ゆっくり考える。じっくり考える。その繰り返しの中で本当の思考力、他の人と違ったアイデアを出せる能力が磨かれていくのではないのでしょうか。